様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１６１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０４３０１

研究課題名（和文）「効果のある学校づくり」を促進する教育改善プログラムの開発的研究

研究課題名（英文）Development of a Program for Educational Improvement Through 'Effective School Management'

研究代表者
久我　直人（Kuga, Naoto）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：２０４５２６５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、子どもの健やかな成長を生み出す教育改善プログラムの開発を目的とした。そのために、まず、子どもの意識と行動の構造を子どもへのアセスメントデータに基づいて可視化した。次に、この意識と行動の構造に適合した効果的な取組を策定し、実践研究校の教育課程に導入した。質的および量的な分析の結果、以下のことが確認された。1)教員の組織的な協働が促進された。2）子どもの学びへの意欲の向上が確認された。3）教育改善を生み出す「効果のある学校づくり」の基本モデルが構築された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
いじめ・不登校等の教育課題が増加傾向にある中、それらの問題に対処療法的に対応するのではなく、根源的な原因を解決する「教育改善プログラム」の構築を目指した。そのために「子どもの意識と行動の構造」を可視化し、その構造に適合した「効果のある指導」を組織的省察を通して策定し、展開する「効果のある学校づくり」を開発した。
小学校３校、中学校３校、高等学校４校に導入し、子どもの学びへの意欲や生活の安定と教職員の組織化が同時に具現化され一定の効果が検証された。小さなエネルギーで大きな効果を生み出す「効果のある学校づくり」の基本モデルが構築されたことは、学術的にも実際の学校教育においても意義ある研究となった。

研究成果の概要（英文）：This study develops an educational improvement program. For this purpose, I first analyzed the cause-and-effect relationship between students' motivations and actions.Next, I developed an effective program for educational improvement based on their motivations and actions.To develop this program, I introduced it into the school curriculum.Thereafter, I analyzed the program's relevance and effect.
I obtained the following results by qualitative and quantitative analyses:1) The program for educational improvement constructed organized intention and collaboration of teachers.2) It improved students' motivations for learning.3) It resulted in educational improvement.

研究分野：学校経営

キーワード：子どもの意識と行動の構造　学校組織マネジメント　教職員の協働　組織的省察

１．研究開始当初の背景

今日の日本の学校教育において，学力低下やいじめ，不登校，学級崩壊等の諸問題が顕在化するなか，教育行政，学校はその問題の解消のために学力向上プランやいじめ防止システム等を策定し，その対応を試みていた。しかし，生起する問題への対症療法的な対応が，逆に教職員の多忙化を招き，疲弊につながり，負の連鎖が生み出されるという構造的な課題が読み取れた。

今一度，子どもの主体的な学びや潤いのある生活を生み出す主たる要素とその構造を解析し，その構造に適合した「効果のある指導」を組織的に展開する教育改善プログラムを構築し，小さなエネルギーで大きな効果を生み出す教育再生のシナリオを明示することが求められた。

２．研究の目的

本研究の目的は，学校現場において生起するいじめ，不登校等の問題を低減し，確かな学力と豊かな社会性を育む，効果的な教育改善プログラムを開発することである。このことを実現するためには，教職員の協働による組織的で，効果的な指導が求められる。

そのために，①子どもの学力向上と社会性の醸成において，効果のある指導を抽出し，それらを構造的に整理すること（指導論），②その効果のある指導を組織的に展開することを可能にする学校組織マネジメントの展開手順を整理すること（組織論），を主たる研究課題とする。そして，指導論と組織論を融合した「効果のある学校づくり」を促進する教育改善プログラムの開発を本研究の目的とした。

３．研究の方法

（１）研究課題の設定

この目的を達成するために，以下の４つの研究課題を設定した（図１）。

① 子どもの主体的な学びと社会性の醸成を促す主たる要素を抽出し，その構造を明示することとともに，その構造に適合した「効果のある指導」を開発すること

② 教職員の組織的な協働を生み出す「組織化プログラム」を学校組織マネジメントの理論に基づいて構築し，その展開過程を明示すること

③ 構築した「組織化プログラム」に子どもの意識と行動の構造に適合した「効果のある指導」を組み込んだ「効果のある学校づくり」の展開過程を明示すること

④ 「教育改善プログラム」の実践研究の検証を踏まえ精緻化すること

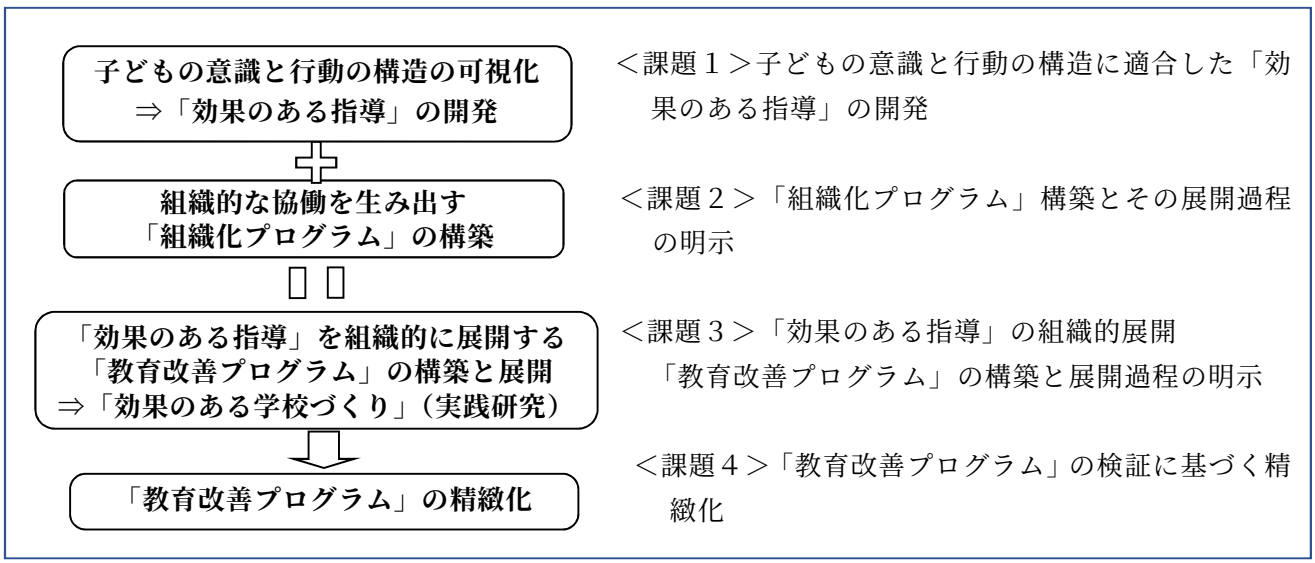

図１　研究の課題

（２）「子どもの意識と行動の構造」の可視化と効果のある指導の抽出

久我（2014）は，中学生の学習への意欲と規範意識を支える構成要素として，①自分に対する信頼，②被受容感，③他者への信頼（保護者，教師，友達），④学習に対する意識と行動，⑤学校生活における意識と行動（「生活規範」）を整理し，その構造を共分散構造分析ソフト IBM SPSS Amos Ver.19 を用いて

可視化している（図２）。

さらに，この生徒の意識と行動の構造に適合させた「効果のある指導」を仮説的に設定し（図３），実際に学校現場に導入している。そして，学力向上と生活規範・社会性の醸成（いじめの低減等）において，一定程度の効果が検証されている。

これら知見を援用し，学校ごとの「子どもの意識と行動の構造」について精緻化を進め，その構造に適合した「効果のある指導」の抽出をすすめた。

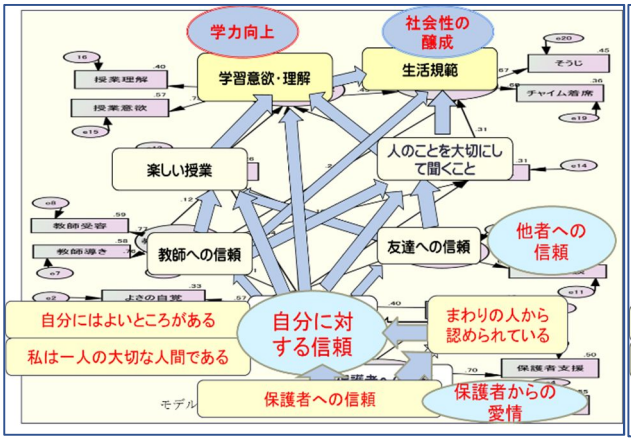

図２　生徒の意識と行動の構造

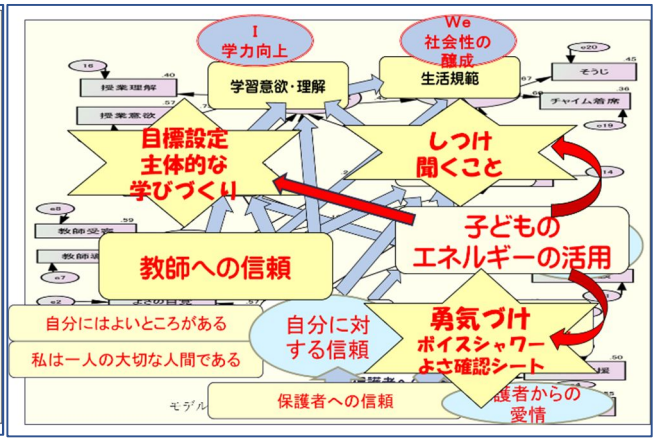

図３　効果のある指導

（３）教員の組織的な協働を生み出す「組織化プログラム」の構築

久我（2011）は，「教師の主体的統合モデル」を開発している。教師自らの手で子どもの実態から課題を生成し，重点目標を策定して，主体的な協働を生み出す仕組みとしている。そして学校の組織化について一定程度の効果が検証されている。このモデルを援用して，各学校の子どものアセスメントデータから導き出された「生徒の意識と行動の構造」に基づいて自校の課題を生成し，解決する「組織化プログラム」の展開過程を開発した（図４）。その具体的手順は，①自校の子どもが抱える教育課題をエビデンスベースで可視化する（R）とともに，②組織的にその教育課題解決のための具体的な取組を策定し（P），③教職員の協働を通して展開する（D）ことで，④子どもの変容を生み出し，次なる課題をデータに基づいて生成する（C・A），組織的な教育活動の展開である。全員参加の主体的な協働を生み出す学校組織マネジメントである。特に，各校の実態等によって異なる子どもの意識と行動の構造を学

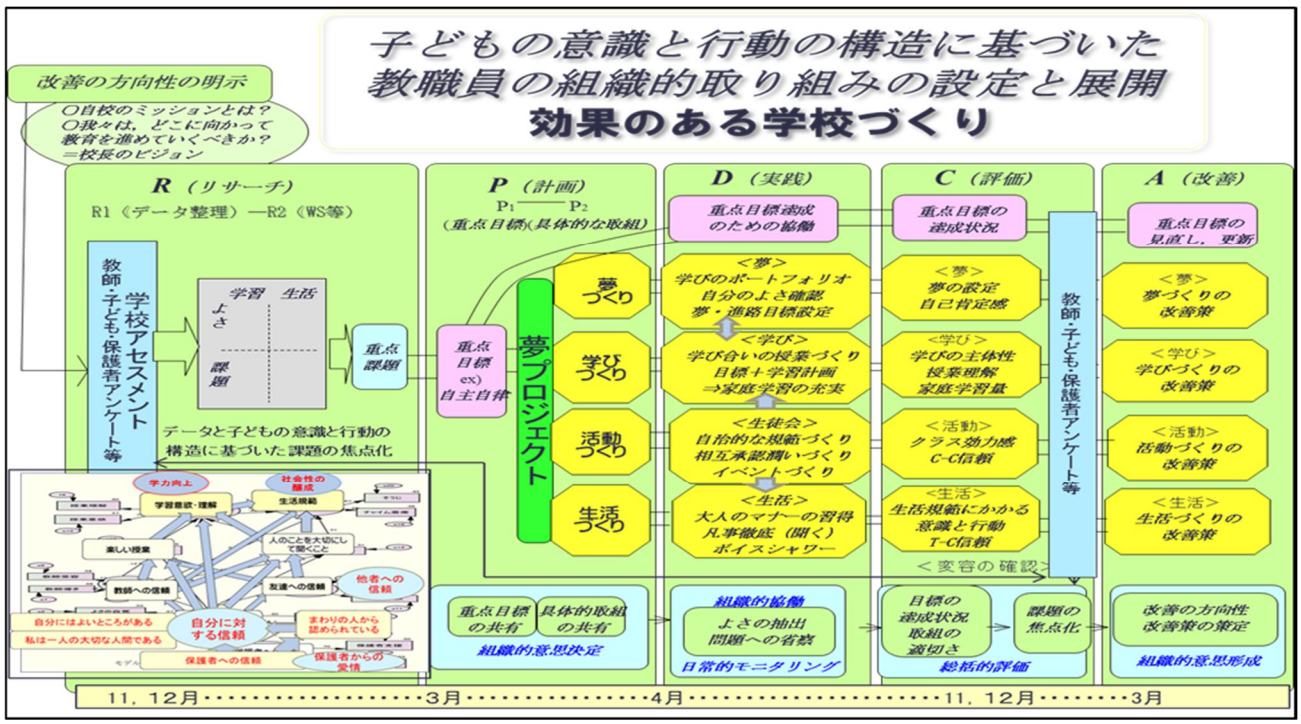

図４　自校の課題に基づく「教師の主体的統合モデル」（久我，2011，一部修正）

校ごとの分析を行い，その特徴を可視化して取り組むべき教育課題の共有を図った。本プログラムを小学校３校，中学校３校，高等学校４校に導入し，その効果の検証を行った。

４．研究成果

開発した本プログラムを小学校 3 校，中学校 3 校，高等学校 4 校に導入し，その効果の検証を行った。校種，学校規模，子どもの実態等が異なるそれぞれの学校において，子どもの変容等，一定の効果が確認された。

これらの中で，生徒指導上の問題を抱えた実践研究校（大規模中学校；以下,「A 校」とする）の事例を紹介する。A 中学校において，全教職員で生徒のアセスメントデータを共有し，根源的な課題と具体的取組の策定を行った。生徒が抱える根源的な課題として,「自分への信頼」の低さがあった。この教育課題解決のために，①勇気づけの「ボイス・シャワー」の必要性と有効性が共有された。特に，自分への信頼が低く，内面が整いにくい生徒へは名前を共有し，組織的な勇気づけが行われた。

また,生徒指導上の問題が多発していたことから,健全な規範意識を醸成する一点突破の取組として,②人のことを大切にして「聴くこと」が共有された（教師と生徒の共通徹底事項)。聴くことへの組織的な取組を通して，自分のことを優先した（自分勝手な）思考を転換し，健全な他者意識を組織的に醸成することに取り組んだ。

さらに，③主体的な学びを生み出す授業づくりと，④生徒のエネルギーを活用した自治的活動づくりの取組が策定された。特に，生徒が自分たちの意志で学校生活の規範や活力ある行事を生み出せるようにするために全校集会が計画的に展開された。例えば,「全校話し合い集会」で体育祭の種目決定を行うなど，自治意識の醸成が促された。

これら組織的な取組の効果が，生徒の学びへの意欲や潤いのある生活での行動に表れ，平成 27 年から 30 年のデータの変容からもとらえられた（図５，６，７）。授業における意欲・理解，聞くことの徹底や掃除等，生活規範のデータで大きな変容が確認された。これら変容を生み出したのが,「自分への信頼」の向上であった。

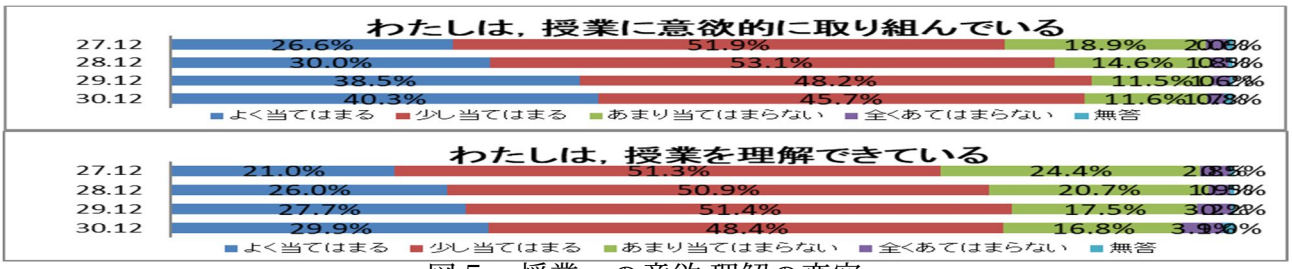

図５　授業への意欲,理解の変容

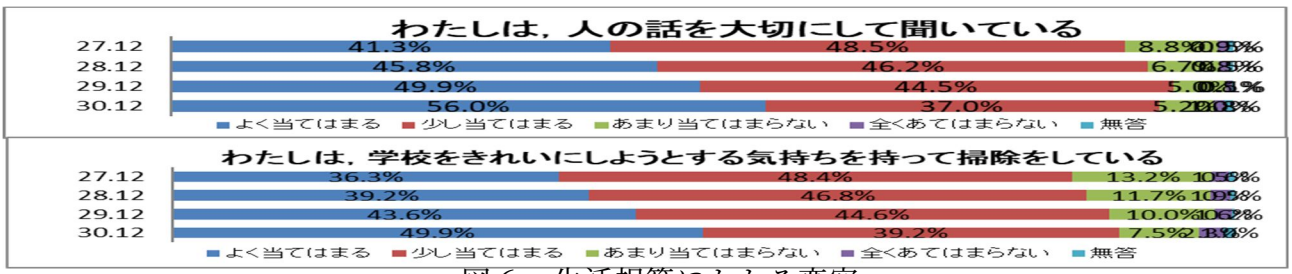

図６　生活規範にかかる変容

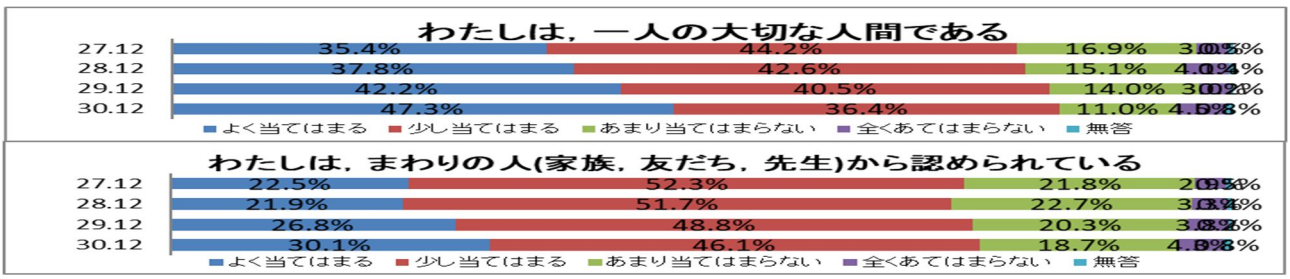

図７　「自分への信頼」にかかる変容

本研究は，上述のように生起する学力低下やいじめ・不登校等の問題に対して，「子どもの意識と行動の構造」を可視化し，根源的な課題を抽出することで，エビデンスベースで「効果のある指導」を策定することを可能にした。さらに，この効果のある指導を組織的に展開することによって，①子どもの変容と，②教員の組織化，さらには，③教員の指導の質的転換を促すことを同時に具現化する可能性が一定程度明示された。この点において本研究の学術的な意義が指摘される。

また，本研究において，①子どもの意識と行動の構造を学校単位で可視化し，学校ごとの効果のある指導を策定することを可能にしたこと（指導論）と，さらに，②効果のある指導を組織的に展開する学校組織マネジメントの展開手順（組織論）を明示し，これら指導論と組織論を融合した「効果のある学校づくり」が明示された点に独創性が指摘される。

＜引用文献＞

①久我直人「中学生の意識と行動の構造に適合した教育改善プログラムの開発的研究―教育再生のシナリオの理論と実践―」『教育実践学論集』，15，pp.39-51，2014

②久我直人「教師の組織的省察に基づく教育改善プログラムの開発的研究―「教師の主体的統合モデル」の基本理論―」『教育実践学論集』，12，pp.15-26，2011

③久我直人「教師の組織的省察に基づく教育改善プログラムの理論と実践―「教師の主体的統合モデル」における組織的教育意思形成過程の展開とその効果―」『教育実践学論集』, 14, pp1-15, 2013

５．主な発表論文等 〔雑誌論文〕（計 2 件）

①西田寛子，久我直人，自己調整学習の理論に基づいた「生徒の自律的な学び」を生み出す英語科学習指導プログラムの開発とその効果, 日本教育工学会論文誌, 査読有, Vol.42-2, 2018, pp.167－181 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjet/42/2/42_42050/_article/-char/ja

②久我直人，坪井保人，高校生の意識と行動の構造に適合した教育改善プログラムの開発的研究－鳴門教育大学教職大学院における現任校実習を通したプログラムの導入とその効果－, 日本教育大学協会研究年報，査読有，第 35 集，2017 ，pp.3－14
https://ci.nii.ac.jp/naid/40021179451/

〔学会発表〕（計 6 件）

①久我直人，子どもの変容を生み出す「効果のある学校づくり」と生徒指導－子どもの意識と行動の構造に適合した「効果のある指導」の組織的展開とその効果, 日本生徒指導学会第 19 回大会, 2018

②久我直人，業務改善と事務職員の役割―「次世代の学校づくり」と業務改善の在り方―，日本教育事務学会（中四国地域研究集会），2017

③久我直人,「効果のある学校づくり」と生徒指導－確かな学力を育み, いじめ・不登校等を低減する「効果のある学校」の組織的展開－，日本生徒指導学会第 18 回大会，2017

④久我直人・山﨑正恭,「効果のある学校づくり」の理論と実践－高知県教育委員会「志育成型学校活性化事業」における学校改善の取り組みと教頭の役割－，日本教育経営学会第 57 回大会実践研究フォーラム，2017

⑤久我直人,「効果のある学校づくり」の理論と実践―鳴門教育大学教職大学院における現任校実習を通した教育改善の取り組み―，平成 28 年度日本教育大学協会研究集会，2016 年 10 月 15 日

⑥久我直人,「効果のある学校づくり」にかかる教育改善プログラムの開発的研究，平成２７年度日本教育大学協会研究集会，2015 年 10 月 10 日

〔図書〕（計 5 件）

①藤原文雄編著他，久我直人他 22 名，学事出版，『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』,「生徒指導の充実と働き方改革」，2018，199(97-105)

②久我直人，山﨑正恭，第一法規，『日本教育経営学会紀要第 60 号』,「「効果のある学校づくり」の理論と実践―高知県教育委員会「志育成型学校活性化事業」における学校改善の取り組みと教

頭の役割―」，2018，325（216-223）
③牛渡淳，佐古秀一，曽余田浩史，久我直人他 5 名，学文社，『教育経営における研究と実践・日本教育経営学会＜編＞』，「生徒指導の組織的改善の実践的研究」，2018，229（104-116）
④村川雅弘編著，久我直人他 17 名，ぎょうせい，『実践：アクティブ・ラーニング研修』，「信頼ベースの学級経営・学校経営にもとづくアクティブな学びづくり」，2016，166（15-24）
⑤久我直人，現代図書，教育再生のシナリオの理論と実践，2015，115